

8. 言語地図データベースの概要

著者	竹田 晃子
雑誌名	方言の形成過程解明のための全国方言調査：「事前研究」報告書
ページ	275-282
発行年	2011-03-31
シリーズ	国立国語研究所共同研究報告；10-03
URL	http://doi.org/10.15084/00002637

8. 言語地図データベースの概要

竹田晃子

8.1 本章の目的

本章では、方言分布プロジェクトで構築中の言語地図データベース（単行本掲載分）の概要とその仕様、利用について述べる。

8.2 言語地図データベースの概要

① 種類

言語地図データベースには、(1) 言語地図目録台帳と、(2) 言語地図集所収項目の2種類があり、データベースソフト「桐」((株) 管理工学研究所)において作成された。

a 言語地図目録台帳

言語地図目録台帳とは、言語地図・方言地図・グロットグラムが所収された日本語による単行本のリストである。内容には、書名／著者／発行年（元号）／発行年（西暦）／国立国語研究所附属図書館（現・図書室）の図書番号（2006年当時）／目次の有無、がある。この台帳の前身は、日本方言研究会のホームページにて公開されている「言語地図目録（単行本）」（注1）である。調査時期／発行所／調査地域／地図数が、発行時期の順に掲載されているが、本データベースでは調査地域・地図数を欠く。

この台帳には、1905（明治38）年の『音韻分布図』（文部省国語調査委員会編）刊行から2006（平成18）年の『方言文法全国地図 第6集』（独立行政法人国立国語研究所編）刊行までの間に刊行された単行本（科研報告書を含む）のうち、合計460点を所収する。

対象となった単行本は、国立国語研究所図書室の蔵書から言語地図が含まれるものを確認して抽出するという方法で選定された。経緯は「3. 準備調査の概要」を参照されたい。

また、いわゆる民俗地図の一部も含む。特に、文化庁が各都道府県教育委員会に委託して1973-1984（昭和48-59）年に行った「民俗文化財分布調査」をまとめた地図である。都道府県ごとに刊行された各刊行物と（『都道府県別 日本の民俗分布地図集成』全13巻（1999-2003刊行、東洋書林）に所収）、分野別に全国分布を統合して示した『日本民俗地図』全10巻（1969-1988、国土地理協会）とがある。全国統一調査票と都道府県別の特設項目調査票を併用した臨地調査が行われた。これらには言語地図に準ずるものが含まれるためデータベースに加え、当該の分布図が言語項目である場合には「言語項目」というタグをつけた。

b 言語地図集所収項目

言語地図集所収項目（以下、項目リスト）とは、言語地図目録台帳の各単行本に所収された言語地図・方言地図・グロットグラム、調査地域概略図や方言区画図の類（以下、言語地図類と称する）について、各項目を一定の基準に従ってリスト化し、調査の観点によ

るタグ付けを施したものである。現在、27800 枚ほどの言語地図類が入力されている。

地図の枚数が多いタグは、すなわち先行研究の量が多い項目として、『全国方言準備調査調査票』の項目選定の根拠となった（注 2）。

② 項目リストの作成

以下、言語地図類の項目リストの作成方法、項目分類のタグ付け方法について述べる。

a 項目リスト作成の方法

項目リストは、主に単行本の目次から、言語地図・方言地図の 1 枚またはグロットグラム 1 図を 1 行として、列の内容を入力していくという方法で作成された。

列には、準備調査項目を選定する目的のもと、言語地図類を分類するための次のような 16 種類が用意された。②から⑤は言語地図の内容、⑪から⑭は地図内容の項目分類タグ、⑥から⑩は準備調査の採択候補を分類するための列である。以下、①から⑯の内容を説明する。

表 1 項目リストにおける列の種類

作業情報	① タグ付け担当者
言語地図の内容	② 地図仮番号
	③ 地図集書名・地図集仮符号
	④ 地図名・地図名よみがな
	⑤ 質問文
準備調査の 採択候補分類	⑥ 採択候補項目_分野
	⑦ 語彙項目_採択候補_項目名・ID 番号
	⑧ 文法項目_採択候補_項目名・ID 番号
	⑨ 音韻項目_採択候補_項目名・ID 番号
	⑩ アクセント項目_採択候補_項目名・ID 番号
地図内容の 項目分類タグ	⑪ 取り扱い分野
	⑫ 文法の分類（分類タグ）
	⑬ 語彙の品詞情報（分類タグ）
	⑭ 語彙の分類（分類タグ）
作業上の備考	⑮ 備考
参照：LAJ・GAJ	⑯ LAJ, GAJ

①タグ付け担当者には、⑪⑫⑬⑭におけるタグ付け作業の担当者名（大西／吉田／三井／小西／新井／竹田）が入力されている。

②地図仮番号には、言語地図類の通し番号が付されている。

③地図集書名・地図集仮符号には、言語地図目録台帳に基づいて、単行本の書名とその

通し番号が付されている。

④地図名・地図名よみがなには、言語地図類の題名と、その読みがひらがなで付されている（注 3）。

⑤質問文には、当該の地図項目の調査に使用された質問文が入力されている。また、選択肢がある場合はそれも⑤に入力されている。質問文がわからない場合は、「辛なし辛」が入力されている。

⑥⑦⑧⑨⑩は、準備調査の採択候補項目として扱うために設けられた。以下、順に説明する。

⑥採択候補項目_分野は⑪と同様、取扱分野が文法／語彙／言語行動／音韻／アクセント／その他に分類されている。その他に分類したものには、調査地域概略図／道路交通地図／調査担当者一覧図／方言区画図などが含まれる。分野が重複する場合は、「語彙、音韻」、「語彙、文法」などのように、併記してある。

⑦⑧は、語彙・文法に関しては⑫⑬⑭のタグ内容が集約されている。

⑨⑩は、音韻とアクセントについて、b(3)(4)のように調査項目によって分類されている。

⑪取り扱い分野では、文法／語彙／言語行動／音韻／アクセント／その他に分類した。特に⑫文法と⑭語彙については、b(1)(2)のような分類タグを施した。

⑬語彙の品詞情報では、名詞／動詞／形容詞／副詞／擬声擬音語／その他に分類される。その場合、名詞には名詞句、動詞には動詞句、形容詞には形容詞・形容動詞、形容詞句・形容動詞句を含む。また、動詞と形容詞には、動作／状態／感情／感覚が付されている。

⑮備考は、地図項目の入力作業およびタグ付け作業上の留意情報が入力されている。

⑯LAJ, GAJ には、一致する『日本言語地図』『方言文法全国地図』の地図がある場合、LAJ または GAJ と入力されている。

b 項目の分類タグの種類

上記 a の列のうち⑨⑩⑫⑭には次の(1)～(4)のようなタグ付けが施されている（注 4）。以下、⑭語彙、⑫文法、⑨音韻、⑩アクセントの順に述べる。

(1) 語彙項目（⑭「語彙の分類」タグ）

語彙項目のタグは、『日本言語地図』（第 1 集付録 A「日本言語地図解説一方法一」4～7 頁）をもとにした分類項目の検討に基づいて作成され、『方言の地図帳』の分類を参考に、改訂を経て表 2 のようにまとめられた。

表2 語彙項目の分類

新規分類			参考			
			LAJ(方法)		『方言の地図帳』	
新規分類: 大分類	新規分類 (タグ)	新規分類注記	LAJ(方法): 大分類	LAJ(方法)	方言の地図 帳:大分類	方言の地図帳
人間 ＝人間や 人間の思考	人倫	親族・性	人	人倫	人間と生活	人倫
	人体	人間の身体		人体・感覚		人体の名称など
	動作	主に動詞		行動		行為と感情
	状態	主に動詞・形容詞		判断		
	感情	主に動詞・形容詞		感情		
	感覚	主に形容詞:五感関係				
	人間 (その他)	人間関係で上記以外のもの				
生活 ＝生活一般	衣生活	衣類・衣料等, 衣に関する語彙		屋内生活		生活
	食生活	食物・調理等, 食に関する語彙				食物・料理・味覚
	住生活	住居・建材等, 住に関する語彙		屋外生活		生活
	農林業	第一次産業のうち, 農林業関係の語彙				
	漁業	第一次産業のうち, 水産業関係の語彙				
	鉱工業	第二次産業関係の語彙				
	商業	第三次産業関係の語彙, 経済関係				
	遊戯	子どもの遊び関係		遊戯		遊戯
	民俗	冠婚葬祭などハレ関係, 宗教関係				
	生活 (その他)	生活関係で上記以外のもの				
自然 ＝自然現象 や生物	時空間	日時・月日・方角・数量・助数詞など	自然	日時	自然	月日・時間
	天地	天体・気象・地形など		天地		天地
	動物	ほ乳類, 両生類, は虫類		獣・鳥	動植物	動物
	鳥	鳥類				鳥
	魚介類	魚・エビ・カニ・貝・蛸・烏賊など		魚・虫		魚
	虫	昆虫, 軟体動物のうち貝以外: カタツムリ・ナメクジなど, 節足動物のうちエビ・カニ以外:蜘蛛・ムカデ・ミミズなど				虫
	植物	植物全般		栽培植物		植物
	自然 (その他)	自然関係で上記以外のもの		野生植物		
その他	その他	上記で分類できないもの				

(2) 文法項目 (⑫「文法の分類」タグ)

文法項目の分類項目は、次の 2 つの方法で設定された。最初に、『方言文法調査ガイドブック』、『方言文法調査ガイドブック 2』、『方言文法調査ガイドブック 3』の章立てと内容に従って、表 3 のようなタグが設定された。これらのガイドブックには、方言文法の調査を行う際に必要になる調査の観点や調査票例が盛り込まれている。

表 3 『方言文法調査ガイドブック』1～3 による文法項目の分類タグ

分類項目	分類対象	方言文法調査ガイドブック 1～3
可能	可能表現	1, 2
自発	自発表現	1
ヴォイス	ヴォイス (受身・使役)	1
テンスアスペクト	テンス・アスペクト	1
条件	条件表現	1
接続詞	接続詞	1, 2
格助詞	格助詞	1
終助詞	モダリティ (終助詞)	1 (間投助詞を含む)
活用	活用	1
主題	主題	2
副助詞	副助詞・接尾辞	2
否定	否定表現	2
授受	授受表現	2
待遇	待遇表現	2
過去回想	過去回想表現	2
推量	推量表現	2
様態	様態表現	2
伝聞	伝聞表現	2
疑問	疑問表現	2
確認要求	確認要求表現	2
原因理由	原因・理由表現	2
希望	希望表現	2 の資料, 3
意志	意志表現	2 の資料, 3
詠嘆	詠嘆表現	2 の資料, 3
強調	強調表現	2 の資料, 3
勧誘	勧誘表現	2 の資料, 3
命令	命令表現	2 の資料, 3
禁止	禁止表現	2 の資料, 3
挨拶	あいさつ表現	2 の資料, 3
感動詞	感動詞・詠嘆表現	3
その他	以上の分類に当てはまらないもの	

次に、『方言文法全国地図』をもとにした分類項目が検討された。表 3 の見直しを経た上で、『方言文法全国地図』にタグ付けする際に不足する文法カテゴリが追加され (注 5),

最終的に次のようなタグが設定された。

文法項目の分類タグ

格助詞	テンスアスペクト	義務
主題	回想報告	様態
副助詞	ヴォイス	伝聞
準体助詞	授受	強調
並立助詞	断定	命令
条件	推量	禁止
原因理由	確認要求	終助詞
逆接	意志	人称代名詞
接続詞	勧誘	待遇
活用	希望	その他
否定	疑問	

(3) 音韻項目 (⑨「音韻項目_採択候補_項目名・ID 番号」タグ)

音韻項目については、調査の観点によって、次のようなタグがつけられている。

音韻項目の分類タグ

単母音（イ・エ：語頭）	合拗音
単母音（ウ：両唇鼻音の前）	ガ行鼻濁音
連母音（アイ）	語中子音の有声化（カ行）
連母音（アエ）	語中子音の有声化（タ行）
連母音（ウイ）	一つ仮名（シ・ス・チ・ツを含む）
連母音（ウエ）	四つ仮名
連母音（エイ）	シ・ヒ（歯茎音・口蓋音）
連母音（オイ）	シュ・ジュ・チュ（拗音・直音）
連母音（オエ）	セ・ゼ（口蓋化）
開合	チ（破裂・破擦）
開合、セ・ゼ（口蓋化）	ツ（破裂・破擦）
女王（長音化）	ハ行子音（両唇音・声門音）
連声	

(4) アクセント項目 (⑩「アクセント項目_採択候補_項目名・ID 番号」の列)

アクセントについては、取り上げられている語例を基本的にそのまま入力した。

c 項目分類のタグ付け方法

分類項目のタグは、取り扱い分野の中で適用された。したがって、それらの分類タグが重複する場合は π で区切って順番に並べた。例えば語彙分野では、地図名「じゃがいも (LAJ 第 174 図, 馬鈴薯)」には、「食生活 π 農林業 π 植物」のように該当する 3 種類のタグが付されている。同様に文法分野では、地図名「行ってもらいたい (GAJ 第 231 図, 「あの人には、是非、いっしょに行ってもらいたい」)」には、「授受 π 希望」のように 2 種類のタグが付されている。

また、分野の分類が音韻／アクセント／語彙／文法／その他のうち 2 分野にまたがる言語地図には、2 種類の分野名が入力され、それぞれの分類タグが付されている。

なお、タイトルはあるが調査文がない言語地図類のうち、調査の観点が判別できないものもある。その場合、分野名も分類タグも付されていない。

8.3 当プロジェクトにおける言語地図集所収項目の利用

言語地図データベースについて、現時点までの利用状況と、今後の利用課題について述べる。

現時点までに、(1) 言語地図目録台帳と (2) 言語地図集所収項目は、『全国方言準備調査調査票』による調査の終了後に、本調査の調査項目検討資料として、事前研究ワーキンググループのメンバーに対して配布された。また、本調査項目の検討時に、(2) に所収されている言語地図類の枚数が「取り扱い地図集数」としてカウントされ、調査項目選定根拠の周辺情報として同委員会で示された。

今後は、これらの調査結果の分析時に先行研究として参照するためのリストとしての利用が期待される。ただし、これらの地図が国語研究所の図書室備え付けの単行本に所収されているもののリストであり、多くの利用者にとっては実際の言語地図類にあたるまでに時間と手間を要する場合がある。また、単行本に所収されていない言語地図類、例えば雑誌論文にのみ所収されているものは未収録であることなど、注意が必要である。さらに、実際に分析する場合に必要な情報として調査年月日、調査目的、調査対象者の属性、調査方法（例えば質問紙によるものか面接によるものか）などが必須だが、本データベースには入力されていない。したがって、言語地図類同様、ひとつひとつ実際の資料にあたって確認する必要がある。分布の経年変化を捉える場合においてこれらはデータベースとしての質的な欠点であり、今後改訂すべき点であろう。

注

- 注1 この目録について、日本方言研究会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cdj/moku.html>) 「言語地図目録 (単行本)」の「凡例」には、「この目録は、日本方言研究会に設けられた言語地図目録作成委員会 (略称 LA 委員会) において大西が分担した対象 (単行本) の一覧である。配列は、刊行された年代順である (年代が不明のものは冒頭に配列した。)」とある。同「凡例」には、「LA 委員会」の説明として「当時日本方言研究会の代表世話人であった故徳川宗賢氏が平成 6 年 (1994) 年に委員長として日本方言研究会に作った委員会。1994 年 11 月、1995 年 1 月・5 月・10 月に計 4 回、学習院大学に集まった。委員の中で対象とする資料の範囲など (例: 雑誌論文・地方史誌・グロットグラムなど) を分担して作業を行った。」とある。
- 注2 『全国方言準備調査調査票』pp. 79-80 の「項目設定の基本方針」「項目選定の経過」および本書の「3. 準備調査の概要」を参照されたい。
- 注3 これらの地図タイトルは、単行本の目次と異なる場合もある。
- 注4 とりわけ文法・語彙の分類項目は、各段階を経て最終案となった。文法項目タグ最終案の検討は大西拓一郎、三井はるみ、竹田晃子が担当した。語彙項目タグ最終案の検討は、大西拓一郎、竹田晃子が担当した。
- 注5 『方言文法全国地図』をもとにした分類項目タグの作成は三井はるみが担当した。

引用文献

- 大西拓一郎編 (2002) 『方言文法調査ガイドブック』(1998-2001 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」 (研究課題番号: 10410097) 報告書) (http://www2.ninjal.ac.jp/takoni/DGG/DGG_index.htm にて報告書の一部を PDF にて公開。2011 年 1 月 31 日 13:20 に参照した)
- 同上 (2006) 『方言文法調査ガイドブック 2』(2002-2005 年度科学研究費基盤研究 (B) 「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」 (研究課題番号: 14310196) 報告書) (web. では未公開)
- 国立国語研究所全国方言調査委員会編 (2009) 『方言文法調査ガイドブック 3』(web. では未公開)
- 佐藤亮一編 (2002) 『方言の地図帳』小学館
- 日本方言研究会 「言語地図目録 (単行本)」 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cdj/moku.htm>, 2011 年 1 月 31 日 13:20 に参照した)